

被災で傷ついた心 芸術で癒やす

大原美術館（倉敷市）を運営する大原芸術財団と国際医療NGOアムダ（岡山市）が、被災地などでアートを使った心のケアに共同で取り組むための包括連携協定を結んだ。互いの得意分野をいかし、被災者だけでなく災害現場で命を守る医療従事者の心の健康管理にも努める。

大原芸術財団とアムダ、協定

1984年の設立以来、国内外で災害や紛争に巻き込まれた人たちに対する医療支援を続けてきたアムダ。佐藤拓史理事長は「現場では言葉にできない被災者の痛みを感じるが、アートには医療では被災者に入り込めない力がある」と期待して連携を持ちかけたという。

一方、「アートには生きようとする人たちを応援する力がある」とするのは財団の大原あかね代表理事。詳細は両者で詰めるが、学芸員ら職員が被災現場やオンラインで子ども向けに絵画教室を開くことを一例として挙げる。医師や看護師を大原美術館に招き、作品鑑賞を通じて緊張やストレスの緩和につなげたいという。

11月19日に児島虎次郎記念館で締結式があり、自身も学生時代に大原美術館に



連携協定を結んだ大原芸術財団の大原あかね代表理事（左）とアムダの佐藤拓史理事長＝倉敷市本町



大原美術館
倉敷市中央1丁目

通ったという佐藤理事長は「感動と希望を届けられる芸術の力を借りて、心の回復がかなう新しい貢献ができる」と話した。大原代表理事は「医療が救った命がもう一度生きる希望を持てるよう、『オール大原』で臨みたい」と抱負を述べた。

（小沢邦男）